

第 36 回全日本高等学校チアリーディング選手権大会

～ディビジョン 1 は箕面自由学園高等学校が総合優勝 男女混成は如水館高等学校が V～

JOC ジュニアオリンピックカップ大会／第 36 回全日本高等学校チアリーディング選手権大会は、1 月 25 日に国立代々木競技場第一体育館で大会 2 日目が行われ、自由演技競技ディビジョン 1 で箕面自由学園高等学校（大阪府）が 2 大会ぶり 18 度目となる総合優勝を飾った。

今大会からディビジョン 1 は女子部門と男女混成部門に分かれて競技が行われることとなり、両部門の最高得点チームが総合優勝となる。ディビジョン 1 男女混成部門は如水館高等学校（広島県）が制した。前回大会優勝の梅花高等学校（大阪府）は惜しくも大会 2 連覇を逃し、女子部門で準優勝。自由演技競技ディビジョン 2 も箕面自由学園高等学校・A が制した。

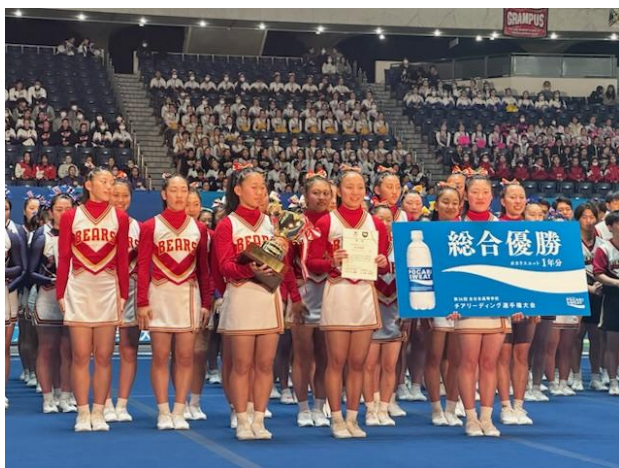
ディビジョン 1 女子部門でシード校として登場した箕面自由学園高等学校は、完成度の高い演技を披露した。

トップが 3 回転するトリプルアップを 4 本。演技の終盤に 3 層のスタッツがほんの少しタイミングがズレたが、ミドルトップとハイトップの選手が必死に踏み止まり、ノーマスで 2 分 30 秒を終えた。

「トリプルは真ん中の 2 本を含めてめちゃくちゃキレイに跳べていました。この短い期間で、選手がよく頑張ってくれたと思います」A チーム担当コーチは笑顔でそう振り返った。

年末年始にかけ学校行事の関係で大会に向けた準備期間は限られたが、コーチは「学校行事に参加することで表現力を学んだことが生きていたと思います」と語る。

前回大会は梅花高等学校に優勝を譲って 3 位に終わっており、悔しさを胸に練習を重ね、昨夏の JAPAN CUP 日本選手権大会 高等学校部門で 278.5 点を出して優勝。今大会も 272.0 の高得点で頂点に立った。





前回大会のデビジョン1で準優勝した如水館高等学校は男女混成部門を制したものの、259.5点で総合優勝には届かなかった。高さのあるトス、躍動感のあるタンブリングで観客を魅了。しかし、挑戦したトリプルアップ3本では正面から左が惜しくも崩れ、3/4ツイストからのトウタッチのピラミッドでも落下があった。

マットに立った男子選手3人のうち、2人は3年生のためこの大会を最後に大学へと巣立つ。集大成の舞台。チームの想いとしては、どうしても総合優勝での「日本一」が欲しかった。

これまで選手を育ててきたコーチは、心の底からこう言った。

「むちゃくちゃ悔しいです」

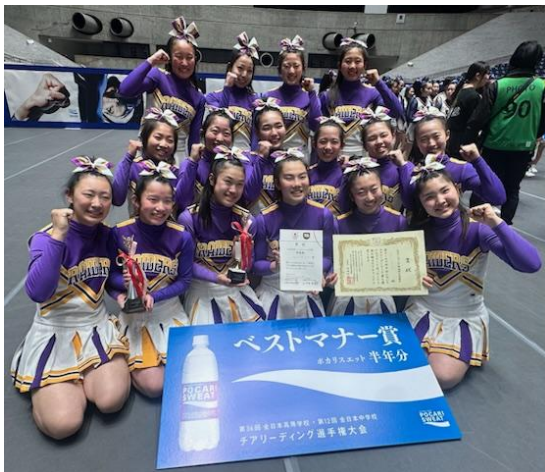
それでも、彼らの努力が色褪せることはない。

「どれだけ緊張をしても、動揺することがないようなチームにしなければいけなかったです。日本一を目指すということは、どんな困難でも乗り越えるチームにならないといけないということを感じました」

その言葉には、選手たちへの深い愛情を感じることができた。

「3年生が抜けるのは寂しいです。このメンバーだからこそその演技もあった。また新しいメンバーで、ワクワクするような新しい演技で日本一を狙えるチームを作ります」

総合優勝にはあと1歩届かなかったが、如水館高等学校は記憶に残る素晴らしいチームだった。



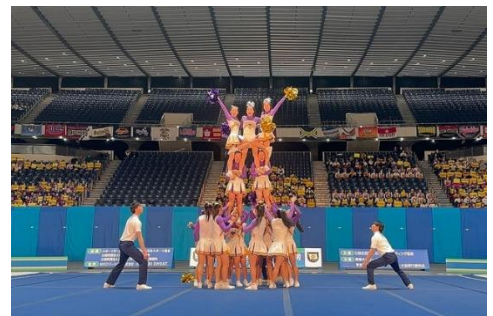
大会2連覇を目指した梅花高等学校も、日本一を争うチームにふさわしい好演技を見せた。梅花オリジナルの「グルン」など、独特の華麗な技で会場を沸かせた。

前回大会で成功させたトリプルアップを3本、今回も挑み、向かって左側がミドルに収まらず、何とかしがみついて落下だけは免れた。その後は気持ちを切り替え、持てる力を出し切った。結果は253.5点で女子部門準優勝。連覇には届かなかった。

表彰式が終わると、キャプテンは言葉を詰まらせた。「後輩と一緒にできる高校最後の演技だったので、すごく悔しいです」と語ると、いつまでも涙が止まらなかった。

それでも、日本一を目指し続けたこの3年間は、かけがえのない時間だった。

キャプテンは「後輩に日本一を取り戻して欲しい」と願いを託した。





本サイトの記事、写真の転載はご遠慮ください。無許可の転載・複製は法律により罰せられます。
Unauthorized reproduction or duplication is punishable by law.